

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 香南市立夜須中学校	校長	永野 富美子	教員数	12	学級数 児童生徒数	第1学年		第2学年		第3学年		特別支援		合計		
	道徳教育推進教師	長谷川 智子	12	児童生徒数		学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
				20		1	17	1	15	1	2	1	54	4		
研究テーマ	道徳科の趣旨を踏まえた指導方法の工夫・改善と評価の在り方に関する実践研究により、生徒一人一人の道徳性の向上を目指した道徳教育の推進															
年度当初の学校の状況	到達目標			中間検証(下半期に向けての改善事項)						年度末(到達目標達成状況)						
道徳性に関する現状 本校の生徒は、道徳の学習に対して主体的に考え、周りに学ぼうとする姿は見られる。昨年度行った道徳意識調査において、「道徳の勉強は好きだ」に対する肯定的評価は低く58.3%、「道徳の時間では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えについて聞いたりしながら自分のこと(生き方)についてよく考えている」に対する肯定的評価は81.3%であった。 道徳の時間は、他教科のような正解を求める授業ではない分、周りとの意見の相違に悩むこともあるが、他者の考えや意見を聞くことで、思考の幅が広がると捉える生徒が増えてきた。一方で、互いに意見の交流をし合い、考え練り上げた結果、自分の意見を持つということは十分ではない。 また、家庭・地域との連携において、通信等を通して情報発信は行っているが、家庭からの声を十分に拾えず交流の部分には弱さがある。	道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上 ①「道徳の勉強は、好きだ」 3ポイント以上向上 ②「自分の生き方についてよく考えている」 2ポイント以上向上 ③「高知の道徳」の活用 5ポイント以上向上 ④「自分には、良いところがあると思う」 3ポイント以上向上 ⑤「将来の夢や目標をもっている」 2ポイント以上向上 ⑥「人が困っているときは、進んで助けている」 2ポイント以上向上 ⑦「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」 3ポイント以上向上			・模擬授業を行い、自分の生き方についてよく考えることのできる授業づくりを工夫する。 ・管理職及び推進教師の授業参観からの改善策を効率的な推進へとつなげる。 ・講師招聘による学習機会の充実により、授業の質的改善及び道徳教育と関連する指導を浸透させる。 ・授業を見合える体制を短時間でも実働化させ、魅力ある楽しい授業づくりに取り組む。 ・思考が活性化する発問及び板書づくりに取り組む。 ・道徳の時間と各教育活動との関連を図り、指導の充実と発展に努める。						②「自分の生き方についてよく考えている」は95.7%、⑦「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」は73.9%で達成。 ①「道徳の勉強は、好きだ」は、82.6%であるが到達目標は達成できなかった。 ③「高知の道徳」の活用は、4月当初より目標のポイントは4.4向上しているが、到達目標は達成できなかった。 ④「自分には、良いところがあると思う」、⑤「将来の夢や目標をもっている」、⑥「人が困っているときは、進んで助けている」は、4月当初の値と変わらずポイント向上までにはいたらなかった。						
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)										指標達成状況の分析				
取組項目	取組の評価指標		5月～8月			中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)			達成状況			年度末評価			
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆校内推進委員会をもって、進捗管理を行う。(毎月2回以上) ◆各学年の別業、年間指導計画に基づく取組の検証(3回以上) ◆管理職、道徳推進教師が、毎週、全学級の道徳科の授業を参観する。		①道徳教育の全体計画(各学年の別業)、年間指導計画(各学年)の作成及び活用、申し送り事項への記入(6月上旬に提出)。 ②推進教師が全ての道徳科の授業の参観。 ③ローテーション道徳の実施。 ④授業者と道徳推進教師が、事前研→授業実施→事後研のサイクルにおいて、短時間で打ち合わせをする時間の確保。 ⑤生徒意識調査の結果の協議・取組策の検討(校内推進委員会)。			B	①全体計画(各学年の別業)、年間指導計画の実質化と検証。 ・道徳科の年間指導計画の(随時)見直し・修正。 ・道徳の内容と各教科等との関連について検証。 ②道徳推進教師による全ての道徳科の授業参観、指導・評価、及び、ローテーション道徳の検証。 ③授業者、学年団、推進教師による事前研→授業実施→事後研のサイクル化の定着と授業の質の向上。 ④意識調査の検証を踏まえた改善策の検討(校内推進委員会)。 ⑤小・中学校道徳教育研究協議会・市道徳教育担当者会等の報告を行い、効果的な取組を共有。			・毎週の校内推進委員会で、進捗状況及び取組の方向性を確認・実施できた。 ・全体計画、各学年の年間指導計画、各学年の授業者計画表も活用することで、見通しある実践につながり、3回の追記・修正等ができ、協力体制が進んだ。 ・各学年の授業へ入り、授業記録の活用をすることで、改善への相互理解が進んだ。			A			
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆道徳授業チェックシート【教師用】【児童生徒用】を3.3以上にする。 ◆公開授業研においては、案内をして、授業についての意見をもらう。(2回以上)		①校内授業づくり研究会1回(校内教材研究会8月)。 ②道徳授業チェックシート(授業者、生徒)の結果及び個人内評価に係る協議・授業改善策の検討。 ③学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、事後研等の整理・保管。 ④小中授業参観週間を活用した授業研修(1回 3名)。			B	①授業研1回(12月中間発表会(公開授業研)講師招聘)。 ②校内授業研究会(9月・11月・2月)。 ③道徳授業チェックシートの結果及び個人内評価の協議・検討。 ④学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、事後研の記録等の整理・保管。 ⑤小中授業参観週間を活用した授業研修(2回 3名)。 ⑥自分の生き方についてよく考えることのできる模擬授業研修の充実。 ⑦他校の公開授業・授業づくり講座への参加(3回 4名)。 ⑧生徒の思考を活性化させる指導技術向上への取組。			・道徳授業チェックシート【教師】3.40 道徳授業チェックシート【生徒】3.67 目標を達成できた。 ・公開授業を3回実施し、授業への意見を広くいただき、授業改善に活かした。 ・教材研究や模擬授業の実施、授業相互参観、授業記録の掲示等、協働して授業改善に取り組んだ。			A			
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆評価の仕方を共有する。(年間3回以上) ◆学期末の個人面談で、学習状況や道徳性に係る成長の様子を保護者に伝える。		①振り返りシート等を活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握→学年会で評価について検討。 ②評価の仕方を校内で共有→学期末の個人懇談で保護者に伝える。			B	①道徳ノートを活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握→学年会で評価について検討。 ②評価の仕方を校内で共有→学期末のたより等で発信するとともに個人懇談で保護者に伝える。 ③職員室だよりを効果的に活用する。			・各研修会・授業づくり講座等での学びを、職員室だよりや資料により共有でき達成。 ・年度当初のPTA総会、1学期の面談等を通して、道徳科の評価の仕方について説明をできた。			A			
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆全学級公開による道徳参観日を実施(2回)し、保護者参加率を20%以上にする。 ◆学校だよりや道徳だよりで取組・成果、道徳教育ハンドブックの内容について発信する。(毎月1回以上)		①毎月のだよりに、授業の様子やハンドブック「高知の道徳」の内容を紹介・啓発。 ②キャリア教育と関連させながら、道徳教育を推進する。			B	①全学級公開による道徳参観日の実施(1回目:12月)。 ②保護者や地域の方も生徒と一緒に学習できる参加型の道徳参観日の実施(2回目:1月)。 ・保護者アンケートの実施・集計・分析、取組成果の発信。 ③毎月のだよりに授業の様子やハンドブックの内容を紹介・啓発。 ・生徒の道徳性に係る様子や懇談会等の内容。 ④ありがとうメッセージの発信。			・道徳参観日の参加率22% ・家庭・地域への案内を、生徒の授業の様子と併せて配布した。 ・道徳だよりを全7号発行した。 ・長期休暇には家庭への課題も提起し、集まった課題をたよりや校内掲示で発信した。			B			